

令和2年度の目玉研究等 農林総合研究所

◆^{みつ なえ}「密苗」による水稲移植栽培の省力・低コスト化技術の確立

【背景】

- ・近年、担い手不足により経営体当たりの水稲作付面積が拡大しています。
- ・水稲移植栽培の省力・低コスト化には、育苗作業の軽労化や育苗箱数の削減が課題です。
- ・慣行栽培よりも育苗箱1箱あたりの播種量を極端に多くし、育苗期間の短縮や使用する育苗箱数の削減を図った「密苗」(稚苗育苗)への取り組みが暖地を中心に普及しています。
- ・本県での栽培事例や「密苗」を試験的に導入している農家へのアンケート結果から、より本県に適した育苗方法の開発が必要となっています。

【目的】

- ・青森県の気象条件に対応した「密苗」による水稲移植栽培の作業体系を確立します。

【R2目標】

- ・「密苗」と疎植栽培を組み合わせた圃場試験を行い、省力性や収量・品質を評価します。
- ・「密苗」をより省力的に育苗するプール育苗法や良質な苗を育成できる施肥管理方法を開発します。
- ・移植後の初期生育を確保する栽培技術の開発を行います。

【今後】

- ・これまでの研究成果と併せて栽培マニュアルを作成し、安定的な「密苗」栽培技術を確立します。



	密苗	慣行	備考
播種量	250～300 g	100 g	乾粳/箱
育苗期間	20日程度	35日程度	
10aあたり使用箱数	10枚程度	30枚程度	坪70株設定

お問い合わせ

農林総合研究所 作物部 (電話0172-52-4396)